

# 豊郷町総合開発審議会

## 第1回資料

- I 総合計画のあらまし
- II どのように策定するのか
- III 策定スケジュール（案）



2018年6月21日

豊郷町

# I 総合計画のあらまし

## 1 総合計画ってなに？

総合計画は、将来、豊郷町をどのような「まち」にしていくのか、そのためにだれが、どんなことをしていくのか、それらの目標や方針を、総合的・体系的にまとめたものです。本町の福祉やまち・ひと・しごと創生、環境といったすべての計画の基本となるものです。

本町では、これまで約 10 年ごとに改定を行ってきました。現在の町総合計画は第 4 次にあたり、平成 21 年度（2009 年度）から平成 30 年度（2018 年度）までの 10 年間に計画期間としています。

## 2 総合計画を策定する理由

かつて、地方自治法において、市町村に対し、総合計画の基本部分である「基本構想」について、議会の議決を経て定めることが義務付けられていました。しかし、平成 23 年の地方自治法の一部改正により、この策定義務はなくなり、総合計画の策定は、市町村の独自の判断に委ねられることとなりました。

本町では、これからの時代には、効率的で効果的な町政運営・地域経営がよりいっそう必要となると考え、平成 31 年からの新しい 10 年間を見通した、「第 5 次豊郷町総合計画」を策定することにしました。

## 3 策定の目的

本町では、これまで第 4 次豊郷町総合計画（豊郷リスタートプラン）に基づいて、平成 30 年度を目標年次とし、「やすらぐまち」「元気なまち」「つながるまち」をまちづくりの理念とし、「ともに よろこび さらなる とよさと」をまちづくりの基本テーマとして、まちづくりを進めてきました。その目標年次を迎えることから、本町の今後 10 年間のまちづくりの基本的な指針となる「第 5 次豊郷町総合計画」（基本構想および基本計画）を策定する必要があります。

策定にあたっては、厳しい行財政の状況や、公共施設の大量更新など、まちをとりまく環境が変化していくなかで、少子高齢化の進展に伴う人口変動等の将来を見通しながら、各種関連計画等との調整を図りつつ、さまざまな住民の声を聞くとともに、第 4 次計画期間の検証を行い、まちの現状や課題をとらえ策定しなければなりません。

このような観点から、第 5 次総合計画は、これまで本町において積み上げてきた住民との対話と協働のまちづくりを検証しながら、次なるステップとして住民とともにめざす明日のすがたを明確にし、その実現へ向けて地域資源・行政資源を最大限活用するための工程を示す「豊郷町の地域経営計画」と位置付けるものとします。

## 4 計画の構成と期間

第5次豊郷町総合計画は、基本構想及び基本計画により構成します。

### ① 基本構想

基本構想は、豊郷町の10年後の将来を展望し、住民と行政の協働によるまちづくりの基本的な理念とまちの将来像を明らかにし、その実現のための基本目標を示します。

計画期間は、2019年度から2028年度までの10年間とします。

### ② 基本計画

基本計画は、基本構想で示すまちづくりの基本方針にもとづいて、各分野において取り組む施策方針を体系的に示します。

計画期間は、基本構想と同様2019年度から2028年度までの10年間とします。

また、社会経済情勢の変化や計画の評価などを踏まえ、必要に応じて見直しを行うものとします。

### ③ 進行管理

計画はその着実な実行と点検・評価・改善の継続が重要であり、PDCAマネジメントサイクルによる進行管理の仕組みを視野にいれながら、計画策定を行います。

## Ⅱ どのように策定するのか

### 1 第5次総合計画のポイント

第5次豊郷町総合計画策定に対する基本的な考え方として、3つのポイントをあげます。

#### 住民と行政の協働でつくった第4次豊郷町総合計画

第4次豊郷町総合計画を策定した平成19年度～20年度は、旧豊郷小学校校舎群の保存問題が真摯に検討されていた時期で、本町のまちづくりにおいて重要な節目の時期でした。**住民と行政との対話を重視しながら、住民アンケートや団体懇談会を通じて住民の声を聞き、若手ワーキングチームでの議論を重ね、審議会と策定委員会の両輪で計画を積み上げていきました。**そして、**新たに「ともにめざす成果指標」及び地域や住民ができることと行政が行う主要事業を掲げた「協働指針」**をもうけ、住民とともに目指す将来像を明確に描くことに努めました。



#### 人口ビジョン・総合戦略との整合

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン及び総合戦略」をふまえながら、平成27年度に策定した「豊郷町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」は、まちの特産や人材を活かし、人の流れを生み出し、若者の結婚・出産・子育てを支援し、交流と安心の暮らしづくりを進めることで、若年層の転出などを抑制し、人口の確保を図ろうというものです。このなかで設定した**「数値目標」や「KPI（重要業績評価指標）」は総合計画の成果指標をさらに具体化したもの**となっており、**次期総合計画策定においても活用・展開を図る**必要があります。



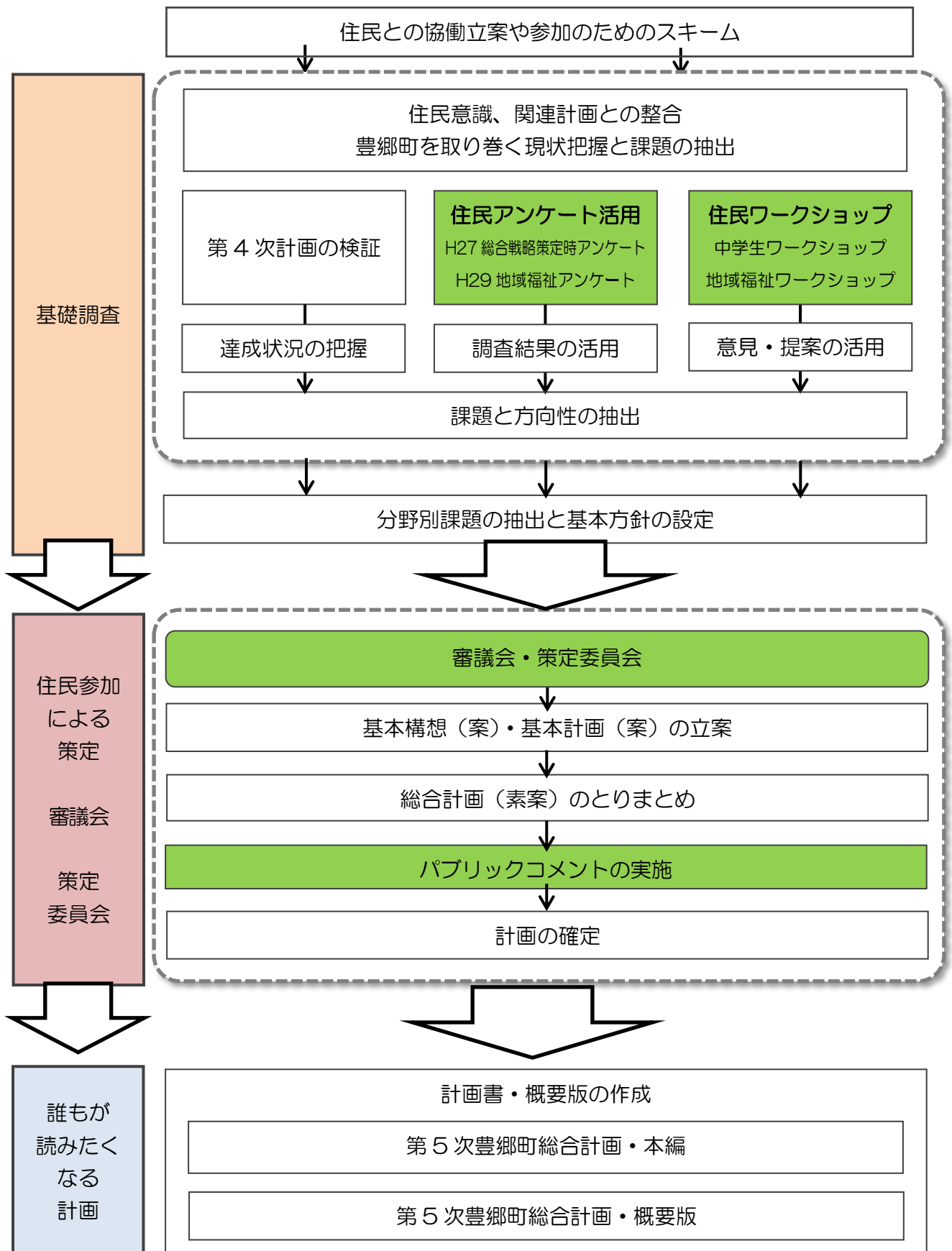
#### 次期計画は、検証と参加で明日への地域経営計画に

次期総合計画は、これまで積み上げてきた住民との対話と協働のまちづくりを検証しながら、次なるステップとして**住民とともにめざす明日のすがたを明確にし、その実現へ向けて地域資源・行政資源を最大限活用するための工程を示す「豊郷町の地域経営計画」と位置付けます。**そして、その着実な実行と進行管理が重要であり、**総合戦略における KPI（重要業績評価指標）と一体となった PDCA マネジメントサイクルの構築を図ります。**

### 3 計画の策定方法

#### (1) 策定フロー

※  緑色網掛け部分は住民参加のプロセス



## (2) 住民の声を活かすための方法

### ◇これまでの住民アンケート等の活用

平成 27 年度に実施された「人口ビジョン・総合戦略に関するアンケート」の結果について、第 5 次総合計画の策定の基礎資料として活用することとあわせて、昨年 12 月に実施された「豊郷町地域福祉住民アンケート」の結果についても、第 5 次総合計画の策定の基礎資料として活用します。

### ◇中学生ワークショップの実施と地域福祉住民ワークショップの活用

若い世代の声を聞くために、中学生ワークショップを実施（8 月の中学生議会開催時に合わせて）します。

また、本町の「地域福祉計画」の策定において、住民が主体となって進める地域福祉のまちづくりのための住民ワークショップを 7 月に行う予定です。具体的には、豊郷小学校区、日栄小学校区の 2 地域の子ども・若者世代、大人・子育て世代、高齢者世代、障害のある人などのグループにわかれて、地域の「良いところ」や、「気になるところ」等について話し合ってもらくことを予定しています。

ワークショップでの意見や提案を基礎資料として、「地域福祉計画」及び「総合計画」の二つの視点から相互活用します。

